

奈良の駅 シリーズ Vol.10



な ら  
駅名： JR 奈良 駅



奈良駅舎 2代目(手前)・3代目(奥)

【駅舎概要】

所在地： 奈良市三条本町1番1号  
構造・規模： 高架駅3階建て3面5線  
乗入路線： 3路線 関西本線(大和路線)、奈良線、桜井線(万葉まほろば線)

【沿革】

明治23年(1890)12月：大阪鉄道の王寺駅-奈良駅間延伸により開業  
明治33年(1900)6月：関西鉄道の駅となる  
昭和9年(1934)年9月：寺院風の二代目駅舎が完成  
昭和59年(1984)10月：貨物、荷物扱い廃止、旅客駅となる  
平成16年(2004)5月：二代目駅舎を曳家工法で移動  
平成17年(2005)9月：三代目高架駅舎で営業を開始  
平成22年(2010)3月：駅機能がすべて高架部に移設。桜井線の奈良駅-高田駅間で「万葉まほろば線」の愛称を使用開始  
平成25年(2013)3月：連続立体交差事業が完了

あけましておめでとうございます。

奈良の駅シリーズ第10回は、JR奈良駅です。春日大社参道の三条通りにあり、2010年の平城遷都1300年記念事業にあわせて行われた駅周辺の土地区画整理事業、連続立体交差事業により高架駅となりました。

■3代目 現駅舎

現在の駅舎は奈良を現代的に表現しています。3階側壁のファサードは五色のカーテンウォールとなっており、ホーム前線路にある寺社伽藍をイメージした飾り柱が支えています。2階外装は白塗り、1階外装は黒タイル張りとなっています。2階改札を出ると天井には格天井が、柱には組物があり、転輸機標識灯をイメージした照明が吊るされ、観光客をもてなす空間となっています。1階2階とも自由通路があり、1階へ降りて駅前広場に向かうと旧駅舎(2代目)があります。

■2代目 旧駅舎

旧駅舎は、古都らしい仏塔を思わせる方形屋根に相輪や四隅に風鐸の和風意匠、外部はスクラッチタイル張りの壁面や縦長の上げ下げ窓などの洋風意匠、内部には格天井、西洋風の白く太い円柱や壁面に唐草文様が施され和洋折衷様式がみられます。大阪鉄道管理局工務課の主任技師らによる設計。高架化によって壊される予定でしたが、曳家により18m移動し保存され、2009年から奈良市総合観光案内所として利用されています。2007年に近代化産業遺産、2011年に土木学会選奨土木遺産となっています。

■歴史・周辺環境

西側は、土地区画整理事業シルクロードタウン21により、ホテルやショッピングモール、なら100年会館、はぐくみセンター、マンションなどがあります。東側は、奈良交通本社、奈良警察署、農協会館(JAならけん)、奈良市生涯学習センター、奈良県立大学やホテルなどがあります。関西本線に特急「まほろば」、通勤特急「らくラクやまと」の特急復活で新大阪から直通運転され、奈良駅は観光拠点として期待されています。

■保存・活用

JR奈良駅は外国人観光客が多く、改札前の案内所と旧駅舎の観光案内所で多国籍語での観光案内など新旧それぞれの駅舎が観光客へのもてなしを担っています。駅前広場ではフリーマーケット、バルの開催やバサラ祭りなど市民参加型のイベント活動が行われています。

【記：奈良支部 久保陽洋】



# 新年のご挨拶



令和7年  
新年のごあいさつ

(一社) 奈良県建築士会会長

中尾 七 隆

令和7年の新年を迎えご挨拶申し上げます。

建築士を取り巻く環境は、物価高騰・人材不足～雇用～育成・法令改正への対応・地球温暖化や異常気象への対応・災害準備と災害時の対応・空き家利活用・情報発信など、多岐にわたり多くの課題を抱え、大変ご苦労されていらっしゃると思います。これらの課題解決に向け、建築士だからこそ、奈良県民だからこそ出来ること、地域に貢献できることを模索しながら、建築士会内外の皆様と連携（公民連携・産学連携）し、今年も下記のような大切な活動を進めていきたいと思っております。

## 【今年の主な取り組み】

1. 町家など歴史的建築物の空き家利活用を推進
  - ヘリテージマネージャーの技術向上につながる講習を続け、具体的に活動する場づくり（例：登録有形文化財所有者を支援する場、歴史的建造物の案内人になれるよう）を進めていきます。
  - 歴史的建造物活用に向けた条例づくりと価値のある建造物の指定が進むよう日本建築士会連合会の協力を得ながら行政や議員の方々と共に検討を重ね京都市のような手引書ができるまで努力します。
  - これまで、JR万葉まほろば線の駅舎や周辺の地域資源の掘り起こしをしてきた結果を活かし、行政と連携し利活用や保存・修景に繋がっていきます。
2. 一般流通木材を使った非住宅の木造化の推進  
奈良県県産材利用推進課と連携し、木造技術者講習など、非住宅建築の木造化に対応できる建築士を育成かつ活躍できる場づくりを進めていきます。
3. 東南海地震・気候変動への対応  
被災対応した建築士や防災連携体制ができている他士会から学び、すべきこと（応急危険度判定士

のフォローや増強、仮設住宅の研究、関係団体との交流など）を進めていきます。

## 4. 技術の向上による会員増強

国土交通省や全国多くの行政団体が、設計や工事の発注時に総合評価に CPD 単位を加点の対象としていることから、奈良県にも採用いただけるよう働きかけていきます。

そして、すでに採用されている多くの他府県建築士会から「一級技術者（建築士と施工管理技士）を有する企業にとって、CPD 単位を取得すると同時に士会に入会することで、コスト・情報・交流面など総合的に判断すればメリットがあり、会員増につながっている。」という報告を受けています。また、いつ発生するか判らない災害に対し、施工管理技士を有する皆様とも、連携体制を構築する必要があると思っています。経営者の皆様には、建築士（正会員）だけでなく施工管理技士（準会員）の皆様にも入会いただけるよう後押しをしていただければ幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

最後に、会員の皆様には、これらの活動にご理解・ご参加をいただくとともに、他にも会員間の楽しい交流を深めながら、今年も引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和7年  
新春ご挨拶

奈良県知事

山下 真

## 無限の可能性を引き出すために

明けましておめでとうございませう。昨年は、元日の能登半島地震に始まり、非常に暑く長い夏があり、ウクライナや中東での戦闘も激化し、穏やかな一年とは言い難かったように思います。一方で、大谷選手やパリ五輪の日本選手など若い方の世界レベルの活躍に勇気付けられました。

## 未来への種をまいた一年

奈良県に目を転じますと、私が知事就任後初めて編成した予算を執行し、県の発展に向けてさまざま

# 新年のご挨拶

な種まきができた年であったと思います。教育や子育て支援の分野では、私立高校の授業料の実質無償化を4月から始めました。これにより私立高校の入学者が増加しました。県立高校の「トイレピッカピカ5か年計画」もスタートしました。公立小中学校の教員の業務負担を減らすために始めた県の新たな補助制度により先生をサポートするスタッフの数を大幅に増やし、8割以上の学校に配置することができました。不足する保育士を増やすための給与加算制度も県が新たに補助を始めたことにより、制度を導入した市町村が5市から22市町村に増加しました。

インフラ整備では、道路の環境改善のための「ならの道りフレッシュプロジェクト」の5か年計画が昨年からはじまりました。また、県と県内の26市町村の水道事業の統合が4月から始まります。医療の分野では、西和医療センターの移転建替えや県立医科大学附属病院の外来棟建替えの計画策定が順調に進んでいます。

産業や観光の分野でも新しい政策がどんどん進んでいます。企業の新規立地や建物の増改築のための補助金制度を充実させ、ホテルの新規立地のみが対象だった補助金を既存建物の改修にも広げました。これらの制度により新たな投資がどんどん進んでいます。また、企業の人材や用地の確保の支援、スタートアップ企業の応援などにも取り組んでいます。観光では、大阪観光局や多くの民間企業と連携協定を締結し、外部の力も借りて奈良の観光を盛り上げようとしています。このような政策を進めていくためには、貴会をはじめとする建築業界のお力添えが不可欠だと感じておりますので、引き続きご協力をお願いいたします。

総じて奈良県政は順調に推移していると思います。これも会員の皆さまのご理解とご支援があってこそです。ただ、奈良県が持つ限りない可能性を最大限に引き出し、県民の皆さまに暮らしの豊かさを実感していただくための取り組みはまだ始まったばかりです。また種が花を咲かせ、実をつけるには、長い年月が必要です。その間、私と県職員が丸となって粘り強い努力を続けるために、引き続きのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。今年が奈良県にとって、会員の皆さまにとって素晴らしい年となることを強く祈念します。



令和7年  
新年のご挨拶

奈良市長

仲川 げん

新年あけましておめでとうございます。

(一社)奈良県建築士会の皆様におかれましては、令和7年の輝かしい新春を健やかに迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より本市の建築行政に、ご支援・ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、元旦には、最大震度7、マグニチュード7.6の「令和6年能登半島地震」や9月21日、石川県の奥能登地方を中心に発生した豪雨により災害が発生いたしました。お亡くなりになられた皆様のご冥福を衷心より祈るとともに、被災された皆様にご心からお見舞い申し上げます。

自然災害や事故はいつ発生してもおかしくありません。東海地震も今後30年間に88%の確率で発生するといわれています。(一社)奈良県建築士会の皆様におかれましては、建築技術の専門家集団として、地震災害等発生時に被災住民の安全確保、並びに平常時の災害防止に寄与するために行う活動にご協力をいただき深くお礼申し上げます。

さて、本市では奈良市第5次総合計画の未来ビジョンにも示されている「地域の特性をいかした様々な働き方にチャレンジできるまち」を推進するため、商工業の充実、起業家の育成、企業誘致の強化等、様々な取組を行っています。

このたび市有地を活用し、本社又は支社機能、研究機関等の拠点を建設・運営する企業の施設の一部を市が借り受け、産地学官連携拠点を設置することで、「産業振興の推進」ならびに「20歳代における社会減の改善」を目指しまちづくりを推進してまいります。皆様方には、様々な角度からまちづくりの推進のために更なるご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様にとりまして、新しい年が幸多き素晴らしい一年となりますよう心からご祈念を申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

# 新年のご挨拶



令和7年  
新年のご挨拶

檀原市長  
亀田 忠彦

令和7年の年頭にあたり、一般社団法人奈良県建築士会の皆さまにおかれましては、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、平素より本市の建築行政に格別のご支援、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

3年余り続いたコロナ禍がようやく収束し、日常を取り戻したように感じられますが、少子高齢化問題や地球温暖化問題、また国際的な安全保障の問題など、先行きが不透明な状況であり、今後も市政をより良く継続的に展開していくためには、さまざまな課題に柔軟に対応しつつ、未来を見据えた政策を実行することが必要であると感じています。

さて、昨年元日に発生した能登半島地震から約1年が経過し、被災地では生活再建に向けて、復旧復興が急がれているところであります。本市でも、南海トラフ地震などの巨大地震や大型台風などの自然災害の発生が危惧されており、災害に強い住まい・まちづくりが求められています。また、本年4月からは、全ての新築建物に省エネ基準適合が義務付けとなり、より快適で環境に配慮した住まい・まちづくりも求められています。既存建築物の利活用や建物の質向上といった多様化するニーズを汲み取りながら、将来世代にわたって使い継がれる良質な住宅・建築のストック形成には、建築物に関する豊富な知識と技術力に精通している建築士の方々の働きが不可欠であると考えております。

奈良県の均衡ある発展は中南和地域の発展なくして果たせないと考えており、檀原市にはその中心都市としての使命があります。県土を俯瞰的に見ても交通アクセスが良く、この良さを最大限に活かし、檀原市だからこぞできることに思い切ってチャレンジする姿勢を持ち続けたいと思っておりますので、これからも建築士の皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴会の今後ますますのご発展と会員の皆さまのご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



令和7年  
新年のごあいさつ

生駒市長  
こむらさき まさし  
小紫 雅史

あけましておめでとうございます。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、8月には初めて南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表されるとともに、豪雨による災害など、自然の脅威を改めて実感させられました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

本市におきましては、昨年10月11・12日に開催した「第6回 地域共生社会推進全国サミット in いこま」に、全国から延べ約1,800人が参加。一人ひとりができることを考える貴重な機会となり、大成功のうちに幕を閉じました。今後も、誰もが居場所と役割を持てるまちを目指し、まちづくりを進めていきます。

今年度は、将来都市像の「自分らしく輝けるステージ・生駒」の実現に向けて、第6次総合計画第2期基本計画をスタートしました。子育てしやすい環境をつくり、人と人とのつながりを豊かにしつつ、「住む」「働く」「楽しむ」が融合し、多様な暮らし方が叶うまちへと進化する施策を進めています。

また、公民連携、人材採用・育成などを進めながら『みんなで創る、日本一楽しく住みやすいまち「いこま」』という都市ブランドの確立に向けて、協創によるまちづくりを進めてまいります。

都市基盤の整備としては、生駒駅南口エリアでの「居心地が良く、歩きたくなるまちなか」の実現に向けたチャレンジショップや宝山寺参道沿いの街なみについて地元と話し合うワークショップなどの取組を実施。地権者や自治会、事業者などで構成される生駒駅南口エリアプラットフォームにおいても、南口エリアの魅力発信などに取り組んでいます。

本市北部では、国家的プロジェクトである、関西文化学術研究都市学研高山地区第2工区のまちづくりを進めており、令和6年12月には、先行的に開発を進める地区において、「学研高山地区南エリア土地区画整理準備組合」が設立されました。また、南エリアに続く次期開発地区において、「学研高山地区ゲートエリアまちづくり協議会」が設立されるなど、「奈良先端科学技術大学院大学を中心に産学

# 新年のご挨拶

官民の連携による“オープンイノベーションを創出”するまちづくりの実現に向け着実に事業を推進しているところです。

一方、学研高山地区の玄関口、生駒市北部地域の拠点でもある学研北生駒駅北地区においては、令和6年6月に「学研北生駒駅北土地区画整理準備組合」が設立されました。商業機能を中心とした駅前のにぎわいや交流拠点の創出、また、周辺住宅地を含めた住まいの循環サイクルを生み出す起点としてのモデル的なまちづくりを目指し、地権者や事業者と共に事業を推進しているところです。

貴会の皆様には、平素から様々な形で多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。本年もより一層のご支援とご協力をお願い申し上げますと共に、本年が、皆様にとって、すばらしい1年となりますよう心からお祈り申し上げます。



## 令和7年 新年のご挨拶

奈良県県土マネジメント部

まちづくり推進局長  
前田 巧

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

奈良県建築士会会員の皆様におかれましては、日頃から本県の建築行政にご支援・ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

去年は、能登半島地震に始まる年となったなか、貴会会員の皆様は様々な活動に注力・奔走されたことと存じます。

一方で、混沌とする世界情勢、働き方改革、デジタル社会の実現など、社会を取り巻く環境が変化しており、我々の建築業界においても大きな変化がおきているところです。

建築関係法令においては、脱炭素社会の実現に向けて、省エネ対策の加速と木材利用の促進を図るため、令和4年6月に建築基準法及び建築物省エネ法が改正され、段階的に施行されてきたところです。3年目となる今年4月には、原則全ての建築物に省エネ基準が適合義務化されるほか、いわゆる4号特例が縮小されるなど、皆様の業務に大きな影響が出てまいります。改正法の円滑な施行に向けて、現在、国主催の講習会や動画配信、マニュアルの公開等が行われており、さらに、本県におきましても、昨年

12月より、「奈良県建築士サポートセンター」を開設し、サポート体制を整えておりますので、これらを活用し法施行に備えていただきたいと思います。

また、盛土等に伴う災害から県民の生命を守るため、「宅地造成等規制法」が改正された「宅地造成及び特定盛土等規制法」による規制を、県全域を対象として令和7年5月7日から開始します。これにより、宅地、農地、森林などの土地の用途にかかわらず、一定規模以上の盛土等を行う場合は許可等が必要になります。

本県では、県民の皆様の安全・安心の一層の確保のため、引き続き建築基準法等の改正内容や盛土規制法の規制等について周知・啓発に取り組んでまいります。さらに、貴会が参画されている各協議会の活動としましても、地震時の建築物被害の軽減を図るための耐震化への取り組み、被災建築物・宅地応急危険度判定に係る実施体制の整備、災害時の被害や危険性が増す恐れのある違反建築物対策を引き続き進めて参ります。

これらの取り組みを円滑に進めていくためには、建築士会会員の皆様のお力添えが不可欠と考えておりますので、引き続きのご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、奈良県建築士会の益々のご発展と会員の皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



# 謹賀新年

## (一社)奈良県建築士会参与会々員

<p>株式会社 浅沼組 (奈良営業所)</p> <p>奈良市三条本町4-32 中室ビル</p> <p>☎0742-26-5225</p> <p>東口 勝彦</p>	<p>株式会社 奥村組 (奈良支店)</p> <p>奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル</p> <p>☎0742-22-5001</p> <p>芳村 昌秀</p>	<p>株式会社 尾田組</p> <p>奈良市高畑町738-2</p> <p>☎0742-26-6011</p> <p>尾田 安信</p>
<p>株式会社 鍛冶田工務店 (奈良本社)</p> <p>御所市150-3</p> <p>☎0745-65-2131</p> <p>鍛冶田 八彦</p>	<p>株式会社 崎山組</p> <p>橿原市南八木町2-3-35</p> <p>☎0744-22-2353</p> <p>寄山 和之</p>	<p>大日本土木 株式会社 (奈良営業所)</p> <p>奈良市高天町38-3 近鉄高天ビル</p> <p>☎0742-22-3071</p> <p>藤垣 淳</p>
<p>株式会社 中和コンストラクション</p> <p>桜井市桜井281-7</p> <p>☎0744-42-9313</p> <p>大浦 晃平</p>	<p>株式会社 中尾組</p> <p>桜井市桜井553-1</p> <p>☎0744-42-3567</p> <p>中尾 隆成</p>	<p>中村建設 株式会社</p> <p>奈良市三条大路1-1-48</p> <p>☎0742-33-1001</p> <p>中村 光良</p>
<p>株式会社 平成建設</p> <p>橿原市曾我町352-4</p> <p>☎0744-22-3800</p> <p>吉崎 真仁</p>	<p>松塚建設 株式会社</p> <p>宇陀市榛原福地610-1</p> <p>☎0745-82-1371</p> <p>井上 清利</p>	<p>村本建設 株式会社</p> <p>北葛城郡広陵町大字平尾11-1</p> <p>☎0745-55-1151</p> <p>南條 秀和</p>
<p>株式会社 森下組</p> <p>吉野郡大淀町檜垣本1589</p> <p>☎0747-52-3535</p> <p>森下 秀城</p>	<p>株式会社 山上組</p> <p>奈良市鳥見町1-1-3</p> <p>☎0742-44-0063</p> <p>山上 武宏</p>	<p>株式会社 米杉建設</p> <p>天理市蔵之庄町49-1</p> <p>☎0743-65-3151</p> <p>米杉 伸喜</p>

(50音順)

# 謹賀新年

## (一社)奈良県建築士会 役員・有志

一級建築士事務所ピオス 奈良市左京1-6-22 0742-71-1712 <b>伊藤吉郎</b>	井上建築工房アルス 大和郡山市北郡山町158-6 大和第3ビル204 0743-51-0286 <b>井上慶治</b>	大和ハウス工業株式会社 大阪市北区梅田3丁目3番5号 06-6131-8550 <b>折目貴司</b>
紀本建築設計事務所 磯城郡田原本町八尾392-12 0744-33-4407 <b>紀本澄男</b>	株式会社福本設計 奈良市大宮町4-281-1 新大宮センタービルディング 0742-34-2800 <b>小寺弘泰</b>	小松原工務店 宇陀市菟田野松井170-1 0745-84-4128 <b>小松原寛俊</b>
株式会社ワールド設計 磯城郡田原本町三笠152-10 0744-33-1616 <b>阪口龍平</b>	株式会社たかの建築事務所 五條市本町1-7-11 0747-22-3232 <b>坂田至伸</b>	坂本工務店 奈良市押熊町558-1 0742-45-8785 <b>坂本慎二</b>
小林建築事務所 天理市柳本町1519 0743-66-2511 <b>庄田尚代</b>	株式会社城田設計 奈良市佐紀町1番地 0742-33-5585 <b>城田全嗣</b>	一般社団法人 奈良県建築士会 奈良市大宮町2丁目5番7号 0742-30-3111 <b>高安秀和</b>
大勝建設株式会社 天理市九条町377-5 0743-66-2569 <b>中嶋孝</b>	株式会社中和設計 橿原市今井町2丁目1番14号 0744-25-5356 <b>中谷淳一</b>	株式会社中西構造設計 橿原市新賀町235-6 橋本ビル3階 0744-24-6537 <b>中西治夫</b>
株式会社榎谷設計 奈良市西ノ京町101番地の1 0742-34-1461 <b>中元綱一</b>	松塚建設株式会社 宇陀市榛原福地610-1 0745-82-1371 <b>松塚幾善</b>	公益社団法人 奈良まちづくりセンター 奈良市中新屋町2-3 0742-26-3478 <b>米村博昭</b>

(50音順)

2024年11月25日(金)第66回建築士会全国大会鹿児島大会(もえよ!建築維新 たぎる地で築くみらい)が開催されました。奈良士会からは43名が参加しました。以下、各セッションとエクスカージョンの報告です。

### ■青年セッション

カクイックス交流センターにて開催の青年委員会セッション「地域実践活動発表会」に参加してきました。今年度は、我が奈良県建築士会青年委員会が近畿ブロック代表として選出、1番目に発表され、発表者は天理支部所属で、青年委員会副委員長を務めておられる桑原正弘さん。発表課題は「すきまヤタイ」。発表では、その活動経緯や内容～成果についてしっかりお話しされていました。結果は奨励賞を受賞しました。全国大会という場で、その活動について発表できたこと、また沢山の方々に知ってもらえたことが、“値千金”になったのではないかと感じました。これを糧にして、今後も青年らしく、活発に活動していただければと切に思います。

ちなみに最優秀賞は北海道ブロック代表 北海道の「建築士お仕事体験フェス」。優秀賞は中四国ブロック代表 愛媛県の「建築士による防災講座」でした。

皆様の日ごろからの活動に敬意を表しつつ、来年開催予定の大阪大会に更なる期待を寄せながら、会場を後にしました。【記：奈良支部 坂本慎二】



### ■女性委員会セッション

『思いっきりバージョンUP! Part2～女性も青年も参加したい「魅力ある建築士会」とは～』をテーマに、前回に引き続き誰もが参加しやすい、入ってよかったと思える建築士会にするにはどうすればよいかを、各都道府県の現状や活動報告を聞き、意見交換されました。

内容は盛りだくさんで、もう少し詳しくお聞きしたいと思える事例も多く、このような情報交換の場が増えれば、間違いなく士会全体のバージョンアップにつながると感じました。



【記：桜井支部 山本規子】

### ■木のまちづくりセッション

テーマ「木造の応急仮設住宅および災害復興の建設準備について考える」

年初の能登半島地震、8月の南海トラフ地震臨時情報そして台風による風水害など災害対応の緊張が続いています。予測のつかない自然災害に対して、全国47建築士会へ応急仮設住宅や災害復興住宅の準備が進められているかアンケートを取り、現時点で「応急仮設住宅の設計者・材料供給者・施工者の三者連携ができて」と回答のあった3県(島根県・和歌山県・徳島県)からその取り組みについて報告がありました。続いて被災県である熊本県から「熊本地震木造応急仮設住宅の取り組みとその後の展開」について、当時県庁で対応された田邊氏から報告がありました。



まだ準備のできていない都道府県も多く、三井所部会長は今日を皆で考えるスタートにしたい、と結ばれました。

【記：高田支部 相河真弓】

### ■歴史まちづくりセッション

全国ヘリテージマネージャー大会

鹿児島県の伝統的建造物群保存地区である4か所の麓から来られた4名に地域の活動の話を伺いました。

注：文中の( )内は伝建地区指定年

- ・川内市入来町(H15)：鹿児島県のヘリテージマネージャーの長坂正雄氏から、重要文化財指定を受けた旧増田家で地域の子供達を集めてお月見会やひなまつりなどの伝統的な行事を行っていること。

- ・南九州市知覧(S56)：「知覧麓を守り活かすまちづくりの会」の一員で知覧麓ラボ事務局の射手園武也氏から、庭園、石垣の景観維持、茅葺屋根の葺き替え等の事業や腕木門が麓の屋敷に多いこと、伝建地区外の竹林伐採等を行い景観維持されていること。

- ・出水市麓町(H7)：空き家となった築100年以上の古民家3棟を再生して「武家屋敷ホテル・RITA 出水麓」として活用されている小野由貴氏から宿泊施設として活用するまでの経緯と営業してからの状況課題。

- ・南さつま市加世田(R1)：市教育委員会で建造物を活用しての教育されている橋口亘氏から、砂像の築造、垣根のイヌマキで造る手裏剣、和釘の鍛造実習等をしていること。

等の報告をいただきました。

【記：奈良支部 高安秀和】

● Fコース：日本麓遺産まち歩きと維新の足跡めぐり  
特に印象的だったのが、最初に訪れた「薩摩藩英国留学生記念館」です。19名の優秀な薩摩藩士たちが密航というかたちで英国へ派遣され海外の文化を学び、日本に戻ってきてからは、日本の要職に就いて日本を良くするため尽力されたことを知り、この方々のおかげで今の日本があるのだなと感銘を受けました。



その他、「薩州濱田屋伝兵衛」で頂いた芋焼酎が美味しく、鹿児島に行ってから焼酎ブームです。

【記：檀原支部 佐藤智之】

● Gコース：種子島宇宙センターと古民家めぐり  
鹿児島大会エクスカージョンは、種子島ツアーに参加いたしました。目的は、種子島宇宙センターの見学です。



まずは、広大な広場に展示されている H2 ロケットの実物大模型でその大きさに圧倒され、宇宙科学技術館では、各エリアで宇宙を間近に感じ、これまでの宇宙開発の歴史を知ることでも未知なる宇宙の魅力が伝わってきました。



世界一美しいといわれるロケット発射場を一望できる展望台では、自然の山や海と対極にあるロケット発射場との融合がとても優雅で言葉では表現しがたいものがありました。

まだまだ、種子島の魅力はいっぱいなのですが、また、行きたいと思う魅力的な島でした。

【記：生駒支部 寺岡春恵】

● Jコース：世界自然遺産「屋久島」を堪能する旅  
私にとって、念願の屋久島でした。1日目は屋久島を時計回りに一周する形で、令和元年開庁の屋久島地杉を使った屋久島町役場をはじめ、大川の滝や西部林道、ウミガメが産卵を行う永田いなか浜等、屋久島の自然を存分に満喫しました。屋久島町役場の樹状トラス構造と地杉の香りは、まるで森の中にいるようで自然と心が潤いました。



2日目は、ヤクスギランド(屋久島自然休養林)をガイドさんの説明を聞きながら散策しました。「ヤクスギ」とは、樹齢1000年以上のものをさし、1000年未満のものは「小杉」と呼ぶそうです。また、数多くの苔も生息しており、その数は700種以上と言われ、様々な表情があり五感を楽しませてくれました。何千年と時を越えた森の空気は澄み渡り、その場に居るだけで身体が浄化されていく感覚がありました。改めて自然の持つ目に見えない力を感じました。 【記：奈良支部 瓶割 環】

● Nコース：東シナ海乗り鉄グルメ

特段乗り鉄と言うわけでもないですが、せっかく鹿児島まで来たのであまり体験できないコースに参加しようと、肥薩おれんじ鉄道でゆったりとグルメを満喫するコースを選びました。



所要時間は約5時間。美味しい食事とのどかな風景で大満足！  
途中下車した駅で散策したり、いっぱいお土産をいただいたりレジャー気分で大満足のツアーでした。



【記：高田支部 吉田泰造、谷 幸治】

## お知らせ

### ●奈良県被災建築物応急危険度判定士養成講習会 (更新及び新規登録)

開催日：令和7年1月16日(木)  
会 場：奈良公園バスターミナル レクチャーホール  
※会場へはなるべく公共交通機関をご利用下さい。

### ●令和7年新年大交歓会のご案内

日 時：令和7年1月24日(金) 18時30分～  
場 所：ホテルリガーレ春日野「飛鳥の間」

### ●奈良県建築士会会員向けメール配信サービスのご案内

昨年より、奈良県建築士会はメール配信のサービスを開始しました。このサービスは皆様の利便性と安全性を考慮してシステムを構築し、**登録された建築士会会員のみ**に最新情報を発信しております。

ぜひ、この新しいサービスにご登録いただき、奈良県建築士会での活動をさらに充実させてください。

登録がうまくできない方は事務局経由で情報・広報委員会までご連絡ください。

[登録フォームはこちら→](#)



## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。  
編集後記の記事をどうしようかなと、昨年をゆっくり振り返ってみますと、コロナ禍からの完全脱却と物価高騰や人手不足問題など新たな挑戦の年になると感じていた元旦に、能登半島地震という悲劇から一年が始まりました。その後、政治の裏金問題、猛暑、新紙幣発行、パリオリンピック、令和の米騒動、大谷翔平選手の大活躍、闇バイト問題、国内外の大きな選挙など、大きな変化のあった年であり、あっという間に過ぎてしまいました。今年は4月から建築基準法の4号

特例縮小という大きな改正が施行される年で、ますます挑戦していかなければならないと感じています。今年も困難な道のりになりそうですが、会員の皆様とともに、建築を通じて、地域に根ざした社会貢献活動を、できることからコツコツと努めてまいりたいと思います。寒さ厳しい中ですが、皆様のプロジェクトや活動が暖かな成果となりますことを願っております。本年もどうぞよろしくお願いいたします。  
【記：情報・広報委員 高杉 明】

1月

1日(水) 元日・年末年始休業(～3日)  
6日(月) 仕事始め(事務局)  
24日(金) 新年大交歓会

2月

12日(水) 監理技術者講習



## 士 會 奈 良

通巻 659 号  
令和7年1月1日(発行隔月1回1日発行)

発行所 一般社団法人 奈良県建築士会  
〒630-8115 奈良市大宮町2丁目5-7 奈良県建築士会館  
電話：0742-30-3111 FAX：0742-33-4333  
WEBサイト：<https://nara-kenchikushikai.or.jp/>  
e-mail：[info@nara-kenchikushikai.or.jp](mailto:info@nara-kenchikushikai.or.jp)

発行責任者 中尾七隆  
編 集 (一社) 奈良県建築士会 情報・広報委員会



## 情報・広報委員会

委員長 伊藤 吉郎  
副委員長 小西 直樹 福田 成生  
委 員 吉村 晃人 本多 健一  
高杉 明 永友 翔  
松尾 憲治 上柿 範兼  
吉田 泰造 松田 輝明  
小松原寛俊 大和 良樹  
押部 誠

私の選択は  
間違ってた  
なかった

選んだのは、合格者の50%以上が  
進んだ王道ルートでした。

総合資格学院イメージキャラクター  
令和4年度一級建築士試験合格/当学院受講生・俳優  
田中 蓮子さん

1級建築士  
合格実績 No.1

平成26～令和5年度

1級建築士 設計製図試験

全国 10年間  
合格者占有率

54.8%

全国合格者合計 36,470名中 / 当学院受講生 19,984名

※全国合格者数は、(公認)建築技術教育普及センター発表による。 ※総合資格学院の合格実績には、模範試験のみの受験生、教材購入者、資料の提供提供者、過去受講生は一切含まれていません。(令和5年12月25日現在)



各講座のクオリティは上げながら  
受講料を値下げしました

詳細は奈良校まで!



開講講座

建築士/建築・土木・管工事施工管理/設備・構造設計1級建築士/建築設備士/宅建/賃貸不動産経営管理士/インテリアコーディネーター

お問合せ先

奈良校 TEL:0742-30-1511